



♡いもうと♡  
イタズラDays!

「おくい小鳩く？風呂沸いたから先はい：ってまたこんな  
トコで寝ちまいやがって：ったく、おい小鳩っ寝るなら  
風呂入ってからにしろ」

「すう…すう…」

「やっぱ起きないか：一度寝たら朝まで起きないからなあ：  
ったく子供かコイツは：さてどうしたもんかなあ  
パンツなんか丸見えじゃねえか、このアホ妹は：」

（コイツももう、年頃の女なん：だよな：ってイヤイヤ待て待てっ  
何考えてんだオレはっ！コイツは妹だぞっ！）

「ゴクッ」



(あ、兄として妹の成長を確認するだけだっ)

「うおっ」

(は、生えてねえ・そっじゃないかとは思ってはいたが・見事にパイパンマンゴだな・つつつても本物のマンゴを見たのはコレが初めてなワケだが・あ、味とか・すんのかな)

「すう…すう…」

「起きる気配は無し、と…」



(マン「って中はこうなってんのか…味のほうはどんなもんなかな」  
「れるっ」

「♡」

「??気のせいかな…」

(しっかしコレといって変な味はしないけど…やっべえ…  
メッチャ興奮してくるなこれ…)

「んっ…あっ…はあっ…んあっ」

(これがクリトリスか…どれ)

「じゅるんっ」

「んっ」



「んっ♡くっ♡んっ♡んっ♡  
くんんんんんんんんんんんんんんんんんん♡」

「うお!!な、なんだ!?!」

「んっ♡くっ♡くっ♡くうんっ♡あっ♡はっ♡  
はあっ♡はあっ♡はあっ♡はあっ♡」

（潮吹いたってことは、イっつたっつてことか…  
ちよつとクリトリス舐めただけでコレか…感じやすいんかなコイツ  
…ってやべえ!）

♪♪♪♪♪  
♪♪♪♪♪  
♪♪♪♪♪  
♪♪♪♪♪  
♪♪♪♪♪

♪♪♪♪♪  
♪♪♪♪♪  
♪♪♪♪♪  
♪♪♪♪♪  
♪♪♪♪♪

ハ  
ク  
シ  
ク  
シ  
ク



「はあっ♡はあっ♡はあ♡♡ん…んあ…?」

「おう、起きたか。まったく寝るんだっいたらベッドで寝るっていつも言ってたんだろ?」

「へ…?…あ…うん…ごめんなさい…」

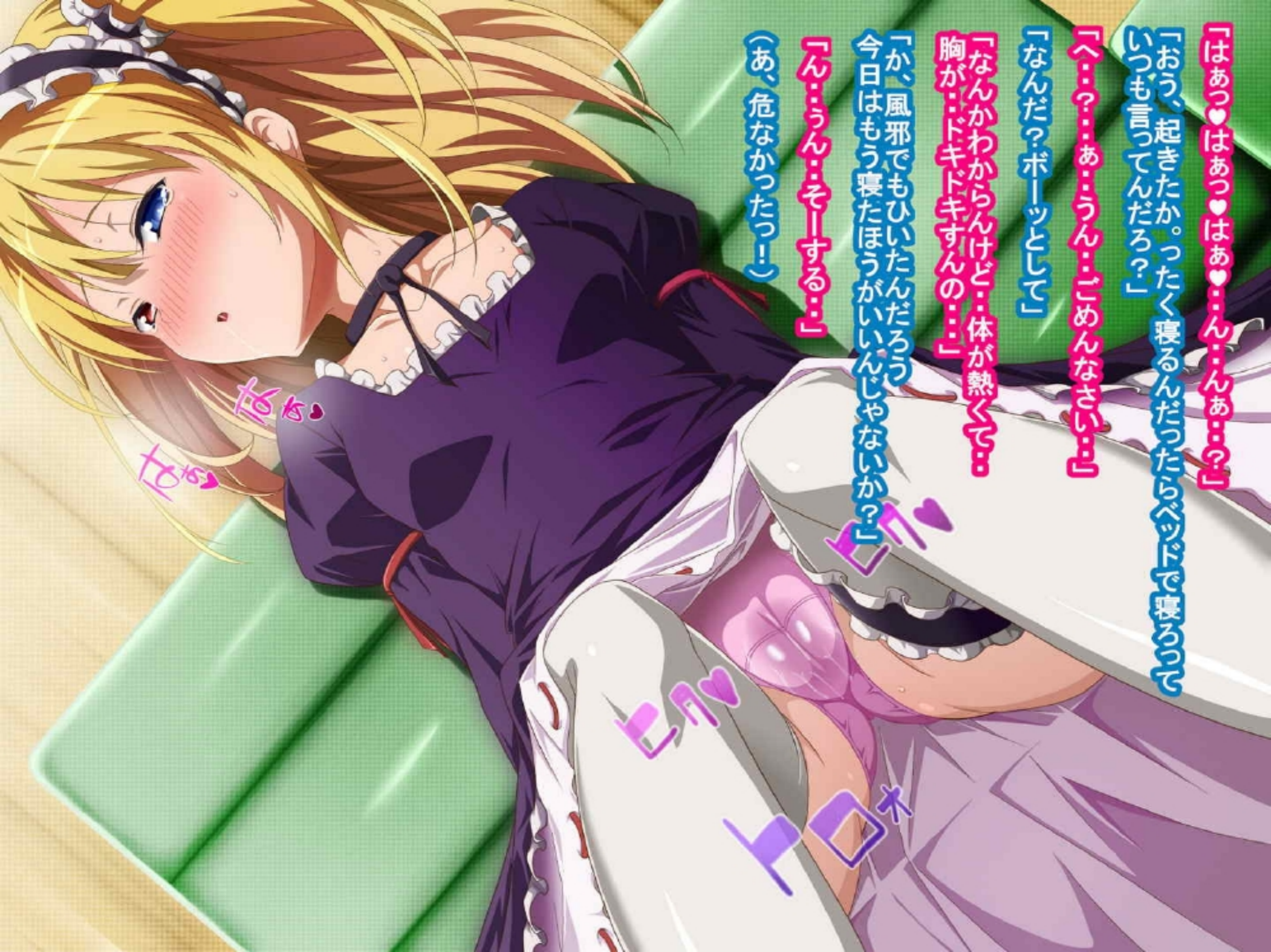
「なんだ? ポーツとして」

「なんかわからんけど…体が熱くて…胸が…ドキドキすんの…」

「か、風邪でもひいたんだろう? 今日にはもう寝たほうがいいんじゃないか?」

「ん…うん…そーする…」

(あ、危なかったっ!)



「おいしい小鳩〜」応葉持ってき〜ってなんで裸!？」

(そっぴいやさつき体が熱いとかなんとか・だからって裸で寝るか普通!?  
無防備すぎんだらうがこのアホ!?)

「すう…すう…」

(しかももう寝てやがるし…くっ、コイツの裸は着替えの時に何度か  
チラ見えしてはいたけど…まじまじと見るのは初めてだな…)

「ゴクリッ」

スウ スウ



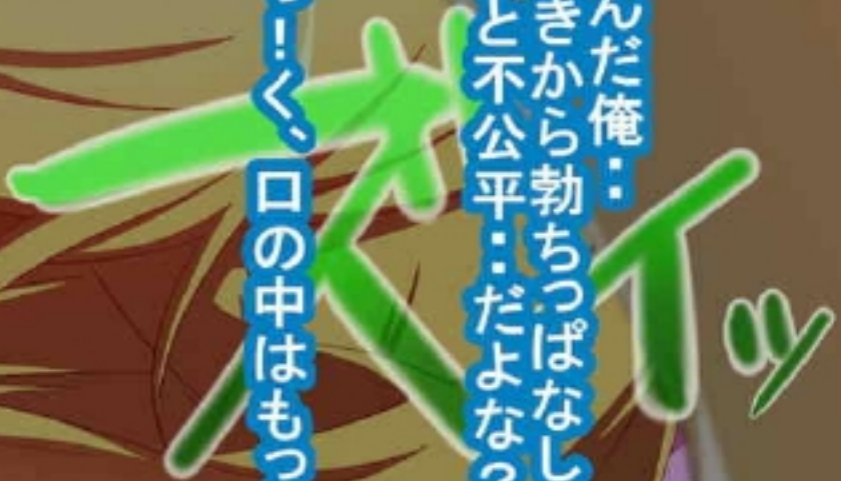
「はあっはあっはあっ」

「うーゆー…んーゆー…ふみゆー…」

(妹の唇にチンポ擦りつけて…何やってんだ俺…でも、さっきコイツのマン「いじってたときから勃ちつぱなしだし…コイツもイっただから、俺もイかないと不公平…だよな?…」)

「はあっはあっはあっ…くっ」

(やたらとプニプニした唇しやがって…っ…く…口の中はもっとなげえのかな…)



ズルッ

ズルッ











「んっ……ふぁっ」

「はあっはあっはあっ」

（や、やつちまった……寝ている妹の口にチンポ突っ込んで口内射精とか……最悪すぎる……）

「んっや……うっぬ……」

（こんだけされてなお寝てられるコイツもどうかと思うが……よし！今日のコトは忘れて、明日からはいつもの俺に戻るっ！こんな事が癖になったらマジで近親相姦になりかねんしな！）

ゴクッ

ゴクッ

ゴクッ



「あ。あんちゃんだ」

（ムリムリムリっ！ムリだっ！これ！  
なんなのコイツ！警戒心とかないの！  
なんでリビングで着替えんだよ！  
一瞬で理性が吹き飛んだわ！）

「？どしたん？着替え  
手伝ってくれるん？」

「いや…ちょっと小鳩にお願い  
したいことがあってな…」

「く…何…」

「えっと…実はな…」

スッ

コ  
ッ

「ジュジュ」となんだ」

「ジュジュジュジュ」

「わかんないか？」

「わかるわけないわアホオ！  
な、ななな何であんちゃんが  
お、おとおお、おちっ、おちん……っ！」

「まあ落ち着け、簡単に説明するとだな」

「せ、説明すると……？」

「あんちゃんは小鳩を見てると  
ムラムラしてしまうんだ」

「んな？」

ズ  
ッ

ズ  
ッ



ドキドキ♡

「な、何してんのおんちゃん」

「大丈夫、小鳩はじつとしててくれればいから」

「やあ、おちんちん、ちんちん擦りつけるの、やあ」

「はあはあ、小鳩のマンコ、プニプニして気持ちいいな」

「ああ、エッチなこと、言わんといで」

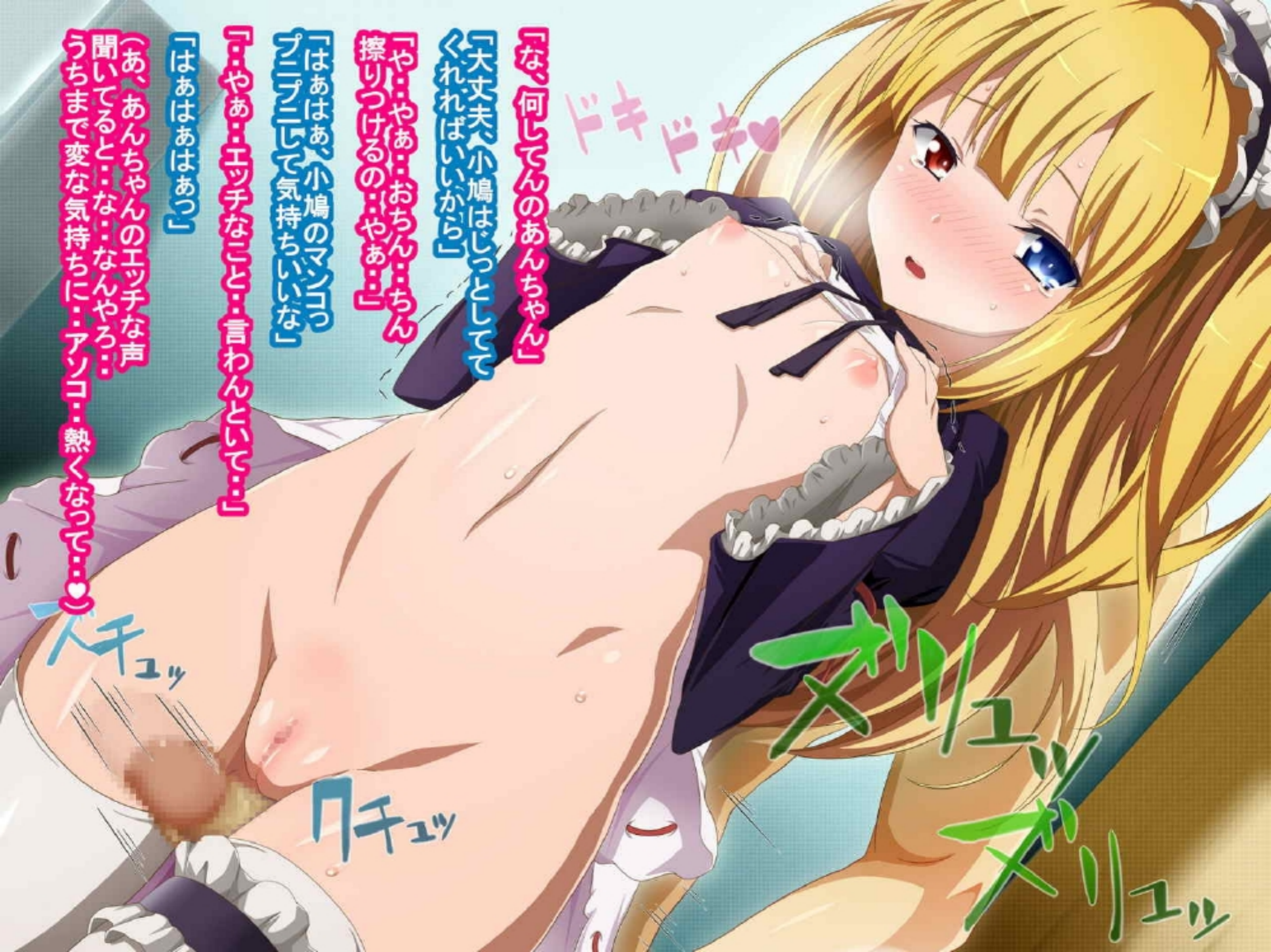
「はあはあはあ」

（あ、おんちゃんのエッチな声聞いてると、な、なんやら、うちまで変な気持ちに、アソコ、熱くなって、♡）

ズリユツ  
ズリユツ

んチュッ

んチュッ





ピクピクッ!

「も、もう駄目だっ!」

「あ、あんちゃん♡うちも  
うちもなんかくるうっ♡」

「おおおおおっ!」

「あ♡♡♡♡ふあ♡♡  
あああああああああ♡♡」

ピクピクッ!  
ピクピクッ!

アハハ

アハハ



ドキドキ♡

はっ♡

はっ♡

キュ♡  
キュ♡

トロ♡  
トロ♡

「はあっはあっはあっ」

「あ♡…はあっ♡はあっ♡はあっ♡」

「はっ！わ、悪いっ、大丈夫か小鳩っ！」

「…あ…あんちゃんの…せーし…♡」

「…小鳩…♡」

「あ…あんちゃん…あんなあ…♡？」

「ど…どしたっ？」

「うちのアソコ…めっちゃ熱なって…ムズムズすんの…せやからさっきの…も…もっかい…して欲しい…♡」

「…風呂入った後、部屋で待ってる…」

「あ、あれ？あんちゃん、ちいきのは？」

「ああ、今度はさっきよりずっと気持ちいい」とじてやるからな」

「ち、ちいきより……」

「ああ、これからするのは……セックスだ」

「せ……せつくす……」

「イヤか？」

「……あんちゃん以外の人となんで……や……♡」

「……ちよなら俺の理性……」



ビクッ!

ビクッ!

ガキッ!  
ガキッ!  
ガキッ!

「あっー!!うあっー!!あああああっー!!」

「さ、さすがにキツいな……っ」

「いっ、痛うううっ!!あっ!!がっ!!  
あ、あんちゃんー!!い、痛い、痛いよおっ!!」

「わかった、ゆっくりり……ゆっくりり入れるからな」

「あっ!!はっ!!ひぐっ!!うあああっ!!」

「よし、全部入った。それじゃ……動くぞ」

「あ、あんちゃんっ、ちよっと待……っ!!」

ギキッ

ギキッ!

ググッ  
ググッ  
ググッ





ゴキウ!

ゴキウ!

ゴキウ! ゴキウ! ゴキウ!

「出すぞっ小鳩っー!」

「あああああああっっっっっ♡♡♡♡♡  
出てるっ♡あんちゃんのをせーっ♡♡♡♡♡  
うちのオマンコの中で出てるaininainin♡♡  
おちんちん中でゴクゴクしてっ♡♡♡♡♡  
くるっ♡きちやうっ♡すっ♡いのきちやうっ♡♡♡♡♡  
あああああああっっっっっ♡♡♡♡♡」

「=っっっっっっっっっっ」

「まだっ出でっ♡出来ちゃっっ♡♡♡♡♡  
あんちゃんの赤ちゃんっ♡出来ちゃっっ♡♡♡♡♡

ゴキウ! ゴキウ!



「はあっ♡はあっ♡…あ…ふあ…♡  
う…うちのあんちゃん…鬼畜じゃ…♡」  
「うっ…す…スマン…」

「初めてやったの…優しくして  
欲しかったのに…あんな乱暴にして…  
な…中にごんないっぱい♡」

「わ、悪かったって」

「っ…次は…」

「えっ？」

「次は…優しくしてくれんと…許さんもん…♡」

「っ…おっ」

チッ  
ポッ

ヒッ♡

ヒッ♡

ほ♡

ほ♡

ほ♡



「小鳩おっしー」

「あ、あんちゃん! な、何すんの!」

「決まっておろう、セックスだ!」

「ふんや」

「ふんや」

「やー」

「なにゆえっ!」

「ムードもへったくれもあらへんもんっ

それに、こんなわんちゃんみたいな格好・やつ!」

「ぬうっ……」

「それからカーテンの隙間から外に……」

ビクッ

「小鳩っ好きだあつー！」

「ふえ!? あんちゃん今なんて…  
くっくっくっくっくっくっ♡」

「さすがにこないだよりは  
スムーズに入ったな、小鳩  
お前のマンコの方は準備OKだったみたいだぞ?」

「そっ…んなっ…ワケっ…!!  
んっくっくっくっ♡」

「あんちゃんのおちんちん入れられると…  
抵抗できんよおっ!」





「はあっはあっ、どうだっ小鳩っ？  
バックで突かれるのはっ!」

「あっ♡はっ♡やあっ♡こっ、こんなっ格好っ  
うちっ♡わんちゃんじゃっ♡ないもんっ!」

「お、それいいな。小鳩、ワッって言ってみっ」  
「そっそんなのっ、言うわけっ!」

「言わないともっと激しくしちゃっうぞっ?ほれほれっ」

「あっ♡あっ♡んあっ♡ふああっ♡い、言うっ、言うっからっ!」  
「よーしい子だ」

「わっわんっわんわんっ!」

(おっ!こっは思った以上の破壊力っ)







「あ♡…はっ♡…はあっ♡…  
あ…あんちゃんなんか…嫌いじゃ…」  
「ほんっとーにすまんかったー!」

「そう言ってもまだ意地悪するんじゃないや…  
あんちゃん本当は、うちの事が嫌いなんじゃないや…」

「いやいやっ、さっき好きって言ったよね!」  
「…ほんま…?」

「ホントホント」

「…次…意地悪したら、もうエッチさせんから…」  
「…おう」



ほっ♡

ピク

「チヤ」

「ポッ」

「チヤッ」

「♪♪♪んな感じ?」

「そうそう、そんな感じ」

「でも…なんで? エッチはせんのか?」

「いれちまうと、どうしても暴走しちゃうからな…  
これならお前のペースで出来るだろ?」

「う、うん…でもコレ気持ちいいん?」

「お、おう」

（もっちょっとサイズがあれば尚いいんだけどな…  
せめてアイツの半分ぐらいいい…）

「…今なんか失礼なコト考えんかった？」

「…ナニイッテンノ？」

「浮気は死刑」

「…なにこいつ」

「あんちゃんはうちだけ見てればえーの  
あんちゃんを気持ちよく出来るのは  
うちだけやもんっ」

「くさくさ」

「うん」



「ほら♡あんちゃんのおちんちん、くちゅくちゅいっとなるよっ♡」

「あ、ああ…はあ…はあ…」

「。」「エッてしたくなったら我慢せんといてな…」

（あんちゃんまたえっちな声出しとる…）

「」の声聞いとると…うちのほうまで…♡」

「うっ…小鳩っ…そろそろ…こ、小鳩？」

「あっ♡…はあ♡…はあ♡…」

（先っぽとおちんちんが擦れて…♡おっぱい気持ちいい♡）



「ちびっ、ちびっ、ちびっ」

「へっ、あ、ふわっ」

「す、すっっっ…噴水みたい…  
間近で見たの初めてやけど…  
射精って…こ、こんな勢いよく出るん？  
これがいつもうちの中に入って…」

「はあっはあっ」

「わわっ」

「ま、まだ出んの？お、おちんちん、めっちゃ  
ビクビクして…」

あ  
ビクッ

ビクッ

ビクッ!



「ふう…悪い、ビククリさせちまったか？」

「…え？…あ…うん…へーき…」

「ん？ほんとに大丈夫か？」

「…うん…」

（す…す…いい匂い…こんな近くで嗅いでると…  
な…なんか…ポーッつとしてきて…  
あ…味とか…どんななんかな…♡）

「小鳩？」

「へっ…あ…なんもないっ…」

（う…うち何考えとるんっ…  
せ、せーし舐めるなんて…  
まるで…へ…変態さんじゃ…）





「ね…寝とる…よね…?  
あ、あんちゃん?」

「……」

「……」の分なら当分…起きん…よね…  
それじゃ…わわっ!!な、なんでもう大っきなっとるん!?  
ま…まだ何もじとらんのに……」

(それにしてもホント…すこい匂い…  
昨日のせーじとはまた違うような……)

「ゴクッ」

ギョッ

きゅんきゅん♡

きゅんきゅん♡



「べろ♡えろ♡れる♡」

（これと違って変な味はせんけど…  
なんかじよっぱい…?）

「うっ」

（この先っぽの付け根についでる白いの…  
すごい匂い…昨日のせしみたいな…  
あ…味見してみよかな…）

「うええっ」

（マズっ!?なにこれ!?で…でもあんちゃんのだし…  
う、うちが綺麗にしてあげんと!）



「ん……あむ♡ちゅっ♡ちゅぱっ♡  
んじゅっ♡じゅるっ♡ちゅるるっ♡」

「……これなら」気に綺麗に  
出来るかな……」

「うっ、はあ、はあ」

（あんちゃん……気持ちいいんかな……  
うちがさっきの白いチイズみたいなの  
全部舐め取って綺麗にしてあげるから……  
あんちゃん気持ち良くなってる♡）

「じゅるっ♡じゅずっ♡じゅんんっ♡」

（あ……口の中せーし匂いでいっぱい♡  
このまま続けたらせーし……出てくる……かな……？）









「数ヶ月後」

「朝から勘弁してくれ…」

「あ、起きた♡  
おはようあんちゃん♡」

「おはようじゃねっつの…  
昨日あんだけしてまだ足りないのかお前は…」

「?でもあんちゃんのオチンポさんだって  
ガチガチになっとるよ?」

「…これは単なる生理現象だ…」

「最近な?ローション無しでも  
お尻に入るようになったんよ?」

「話聞いて…」



「あつ♡はっ♡はあつ♡  
いい♡いい♡よっ♡あんちゃんっ♡  
もっ♡もっ♡おっ♡」

「くっ」

「(ニニ)数ヶ月毎日毎日…  
どんな性欲してんだこいつは…」

「お尻イイっ♡お尻イイよおっ♡  
あんちゃんもっ♡もっ♡奥までえっ♡」

「(妊婦のくせにこイツ…っ  
親父にバレたら俺がハツ倒されるの…っ…  
だっっ!!もうどうにでもなれ!!)」

「オラっ、どうだっコンチクショウー!」

「ひああっ♡す、スゴイっ♡  
スゴイよおっ♡うち…もう…だめえっ♡」

ズキ!

グキュ!







「あ♡…は♡…はあ♡…はあ♡…はあ♡…」

「はあっはあっ…満足したか…?」

（はあ…とりあえず今後のコトは  
飯食った後にでも考えんと…）

「…まだ…」

「…とりあえず飯食ってからな…」

「やつ…まだオマンコに入れてへんもんっ」

「…いや、だからな…?」

「あんちゃんはそのままでもいい?」  
「うちが…うちが全部じだげるから…♡」

「ゴッポッ」

「ゴッポッ」

「ゴッポッ」

「ゴッポッ」

「ゴッポッ」

「ゴッポッ」

「ゴッポッ」



「んふう♡あんちゃんのもう固く  
なってきたよ♡」

「もう好きにしてくれ…」

「ほんまにっ♡っ♡やったっ♡」

「っ」

「は…はしまったか？」

「あんちゃんのせーし  
全部うちが搾り取ったげる♡」

（もうほとんど出ないっの…）

ズ  
ズ  
ズ

ズ  
ズ  
ズ



「あっ♡はっ♡ほらっ♡  
あんちゃんのおチンポ♡  
完全にガチガチになっ♡とる♡」

「んっっ」

(俺の性欲も大概だな…)

「んっ♡はあっ♡はあっ♡  
あんちゃんっ、気持ちいい!?  
うちのオマンコっ♡気持ちいい!?」

「…ああっ最高だよちくしよっ…」



「うちもっ♡うちも気持ちいい♡♡  
あんちゃんのおチンポ好き♡♡  
大好きいっ♡!」

「くっくっ」

(こんだだけ使い込んでんの、  
緩くなるどころか日に日にマンコの吸いつきが  
よくなっていきやがるっ! なんなんだコイツはっ!)

「あっ♡はあっ♡出してあんちゃんっ♡  
うちに全部っ♡せーし出してえっ♡」

(いきなり締め付けが?  
ま、マンコに：搾り取られるっ!)

「あーっ! あーっ! あーっ!





「…あつ♡…はっ♡…はあひ♡…  
す」…こんな溢れてきよる♡…」

「はあつ…はあつ…はあつ…  
さ…さすがに…もう出ないぞ…」

「…搾り取るって言った♡♡」

「…くっ♡」

「…全部出すって言ったもん♡♡」

「何言ってるの!?!  
イヤイヤ無理だつてっ…」

「や…うちが全部出したげるの…」

「話聞いてっ?」



「あっ♡はひっ♡ひぐうんっ♡  
ま：まら♡れひゃあ♡  
あんひゃんのせーひっ♡  
まら出てゆよおっ♡」

「…し…死んでしまっ…  
こ…小鳩さん、も…もう勘弁して…」

「やあっ！あんひゃんのせーひは  
うちだけのものやのっ…」

「も…もはや…何を言ってるかわからん…」

「あんひゃんが好きただけやもんっ…」

「…へっ…」

「らから、あんひゃんは  
うちだけのものやのっ…」

（な…何やらヤンデ化してるような  
気もするが…ま…いいか…）

「…おう、そだな」

「うん♡！」

ドッ！ドッ！ドッ！

ズッ！ズッ！

ズッ！ズッ！ズッ！

ズッ！ズッ！